

お出かけ前の点検

CORONA *MARK II* VAN・PICK-UP



■ 仕業点検

お出かけ前にこれだけはぜひ!!

どなたでも車を1回りすれば気軽に容易に点検ができます。

点検はムダを省き手順よく行うのがコツ

①→②→③の順に行ってください。

1. まずエンジン・フードを開けて

オイルと水の点検……………①

2. 次に運転席に座ってエンジン始動各計器類を点検し、ウォーム・アップさせながらハンドル、ブレーキなどを点検……………②

3. ヘッドランプをつけて運転席を出て周囲を1回りする間に

タイヤ、ランプ類、オイル洩れなどを点検……………③～⑤

4. 再び運転席に乗り出発前に除行させながら速度計や、ハンドル、ブレーキの作動を点検……………⑥

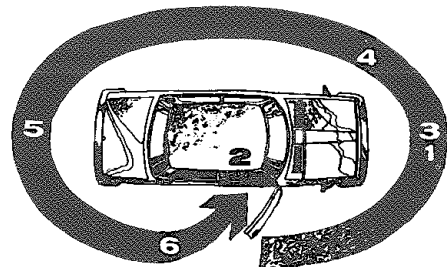
あなたのコロナ・マークIIをいつも快適にご使用いただくために、お出かけ前に次のことを点検してください。

項 目		点 検 内 容
異 状	個 所	前回の悪かった所はないか。
車 の か た む き		前・後輪のスプリングに損傷、折損はないか。
タ イ ヤ		空気圧は適当か。異常摩耗(残り溝1.6mm), 損傷はないか。
エ ン ジ ン		エンジン・オイルは規定量はいつているか。 異音は出ていないか。排気の状態は正常か。
ラ ジ エ ー タ ー		冷却水は規定量はいつているか。
バ ッ テ リ ー		バッテリー液は規定量はいつているか。
ブレーキ	ペダル	踏み残り代 遊 び
	液 量	規定量はいつているか。
パーキング・ブレーキ		引き代は適当か。13ノッチ以内残り(9ノッチ)。
ステアリング・ホイール		ゆるみ、ガタはないか。遊びはハンドル円周上で50mm以内 異常に振れたり、とられたり、重くないか。
各 ラ ン プ 類		各々のランプは点灯するか。
各 計 器 類		作動はよいか。
ホ ー ン		鳴るかどうか。
ワ イ パ ー		作動は良いか。
ミ ラ ー		後方がよく確認できるか。
ライセンス・プレート		汚れ、損傷はないか。

この中には、道路運送車輛法によりドライバーに義務づけられた仕業点検項目が含まれています。

■ 仕業点検項目

車の周囲を一周する



1 エンジン・フードを開けて



- エンジン・オイル
質・量
- ブレーキ・フルード量・質
- 冷却水量・質

• ファン・ベルトのゆるみおよび損傷点検

2 運転席に座って



- 燃料計（ガolin残量）
- 充電、油圧警告灯

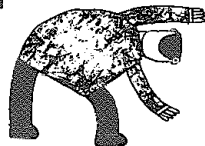
- ターン・シグナルランプの点滅
- ブレーキ・ペダルの遊び(0.5～5mm)、残り代
- ワイパー・ホーン作動
- リヤ・ビュー・ミラー写影
- ステアリング・ホイールの遊び、ゆるみ、がたおよび操作不具合
- パーキング・ブレーキの引き代の余裕点検

3 車の前から



- ヘッド・ランプの点灯
- スモール・ランプの点灯
- ライセンス・プレートの汚れ・タイヤ空気圧、傷、摩耗、(残り溝1.6mm)

4 車の下をのぞいて



- エンジン・オイル洩れ
- トランスミッション・オイル洩れ
- ディファレンシャル・オイル洩れ
- ブレーキ配管オイル洩れ

• ラジエーター水洩れ

5 車の後から



- テール・ランプ点灯
- ライセンス・プレートの汚れ
- 排気ガスの色
- タイヤ空気圧、傷摩耗(残り溝1.6mm)

6 徐行しながら



- 水温計、速度計
- ハンドルの重さ、異音
- ブレーキの効き
- パーキング・ブレーキの効き

そのほか



- ブレーキ・ランプ
- バックランプ
- 前日の異常箇所

■高速走行前の点検

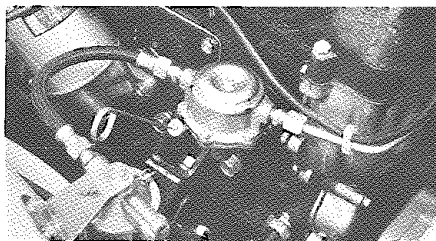
高速走行前は作業点検項目はもちろんですが、次の項目も追加点検してください。

項目	点検内容
タイヤ	石、釘その他の異物はないか。
エンジン・オイル	汚れていないか。
ラジエーター	水漏れ、フィン間にごみなどつまりはないか。
ブレーキ	走行してブレーキの片ぎきはないか。 ブレーキ・チューブおよびホースと他の部分の接触、損傷、取り付けにゆるみはないか。
ハンドル	走行してハンドルが振れたり、取られたり、または重かったりしないか。
ファン・ベルト	ファン・ベルトの張りは適正であるか。 損傷はないか。
ガソリン	目的地まで走行するのに十分はいつているか。

エンジン・ルーム内の点検

1

＝エンジンオイルの点検



エンジン・オイルの点検……レベル・ゲージを抜いて、きれいな布などでふき、次にレベル・ゲージを元の穴へいっぱい差しこんで静かに抜き出してください。

このとき、先端についたオイルの位置を讀んでください。

オイルFとLとの間にあれば良く、L以下のときはFまで補給してください。

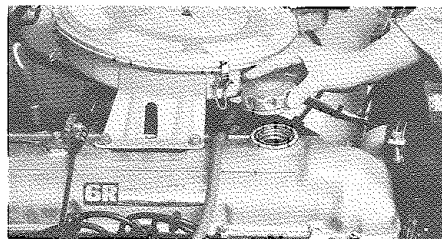
《注意》

ゲージを抜きとるとき、先端部が穴に当たると、ゲージについたオイルの量が狂い

ますので、穴に当たらないように抜きとってください。



エンジン・オイルの補給



左にまわしてはずします。

オイル・パン容量……4.1ℓ (6R)
3.5ℓ (2R)

エンジン・オイルは、キヤッスル・モーター・オイル・スペシャル以上をお使いください。

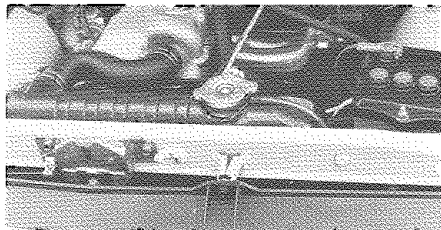
《注意》

1. オイルを補給したあと、どれだけあ

るか必ずオイル・レベル・ゲージで確認してください。

2. オイルはできる限り同じ銘柄のものを補給してください。

2 =冷却水の点検



点検と補給……ラジエーター・キャップは左に約90°まわすとはずれます。

口元から約20mm以下のときは、きれいな水を入れてください。

しめるときは、キャップ裏側の爪を切りかきに合わせてはめ、押さえながら右に止まるまでまわしてください。

なお、ラジエーターの水は、口元までいっぱい補給すると運転したあと水がすこ

し減りますが、これは故障ではありません。ある程度減るとそれ以上減りません。
冷却水容量………7.4ℓ

《注意》

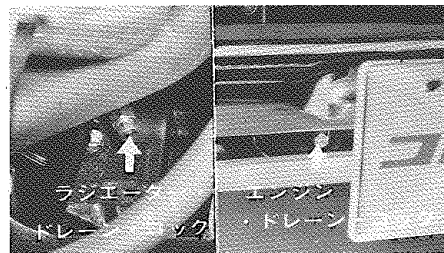
エンジンの冷却水温度が高いときは、危険ですから、エンジンが冷えるまで、キャップをあけないでください。

3 =不凍液

冬期には、ラジエーターに不凍液を入れてください。冷却水が凍ると、ラジエーターや、エンジンを破損することがあります。

不凍液を入れる量によって、冷却水の凍る温度が変わります。キャスル不凍液の場合は次表のとおりです。

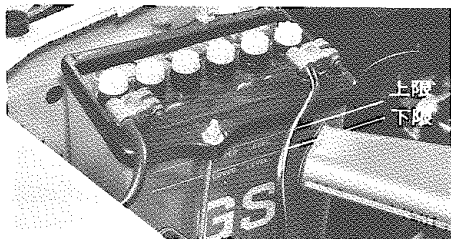
凍結防止温度℃	-5°	-10°	-15°	-20°	-25°	-30°
混入量ℓ	0.9	1.7	2.3	2.7	3.1	3.4



不凍液の注入は次のように行いません。

1. ラジエーターおよびエンジンのドレーン・コックを左にまわして外し、冷却水を抜きます。
 2. 水道の水を出したままにして、ラジエーターおよびエンジン内を洗滌します。
 3. ラジエーターおよびエンジンのドレーン・コックをしめつけます。
 4. ラジエーターに適量の不凍液を入れ、きれいな水を満たします。
- 暖かい季節になり凍結の心配がなくなったら、不凍液を抜き、ラジエーターおよびエンジンを洗滌してきれいな水を入れてください。

■ バッテリー液の点検



バッテリーの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ります。バッテリー・ケースは半透明になっていますので液量は外からわかります。

液面はUPPER LEVELとLOWER LEVELの間であればよく、少ないときはUPPER LEVELまで蒸りゅう水を入れてください。

キャップは左にまわすとはずれます。

《注意》

1. 液は必ず蒸りゅう水を使ってください。
2. 電解液は希硫酸のため衣服につくとボロボロになって穴があきます。
3. キャップには、通気孔があげてありますので目づまりのないように注意してください。
4. ターミナル部がゆるんでいたら、締付けてください。
5. ターミナル部に白い粉が付いていたときは温湯で清掃し、グリースまたはワセリンを塗布してください。

4

＝ブレーキとクラッチのフルード



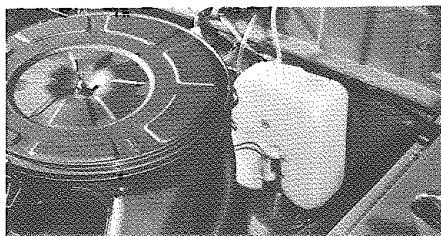
《注意》

1. ブレーキ・フルードは、トヨタ純正ブレーキ・フルード・グリコール2000（ディスク・ブレーキ車はグリコール2400）を補給してください。銘柄の違ったフルードを使用しますと、フルードの性能が低下し危険です。フルードの量は、外側から点検できます。フルードは、タンクに $\frac{3}{4}$ 入っていれば良好です。もし少ない場合はタンクの上限までトヨタ純正・ブレーキ・フルード・グリコール2000（又は2400）を補給してください。万一、フルードの減り方が著しいときはサービス工場にご連絡ください。
2. 補給のとき、ゴミがタンクの中に入

らないよう注意してください。小さなゴミでもフルードに混じると、ブレーキやクラッチが効かなくなり危険です。

3. タンクの上面には通気孔があげてありますので、目づまりのないように注意してください。

5 =ウォッシャーの液

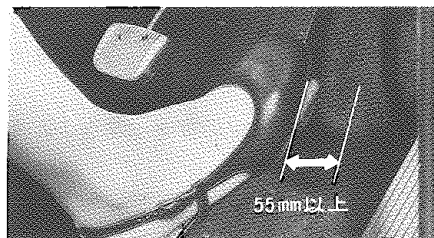


ウォッシャー液が空のままモーターを回しますとモーターがこわれることがありますので常に規定のレベルまで補給しておいてください。

寒冷時には液が凍結し、タンク等を破損することがありますので、凍らず洗滌力のすぐれたトヨタ・ウインドゥ・ウォッシャー・フルードをご使用ください。

車内での点検

1 =ブレーキの点検



1. フット・ブレーキの点検

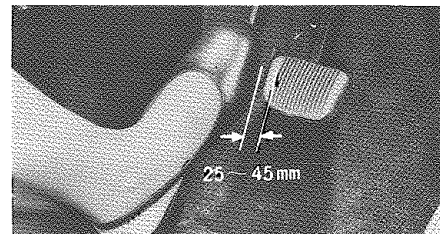
ブレーキ・ペダルをいっぱい踏みこんだとき、ペダルと床との間が55mm以上あり、又、ディスク・ブレーキ取付車はこの状態でエンジンを始動すると、ペダルが少し奥へ入れば異状ありません。しかしこの踏み残りしろがおかしいときは、サービス工場へ連絡してください。

2. パーキング・ブレーキの点検

パーキング・ブレーキは、効きはじめからカチカチと音がし、13ノッチ以

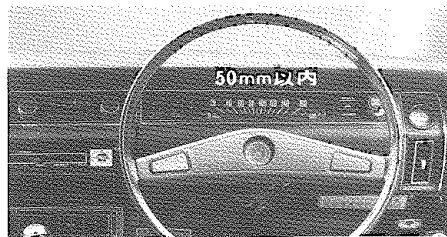
内が正規です。不具合のあった場合は取扱い店のサービス工場で点検を受けてください。

2 =クラッチ・ペダルの点検



ペダルを踏んで、はじめの25～45mm位はほとんど抵抗なく、その後、抵抗を感じながらいっぱい踏みこめるときは、正常です。始めからペダルが重いとき、または、抵抗なく踏めるときは、サービス工場へ連絡してください。

3 =ステアリング・ホイール



ホイールを指先で軽く左右に抵抗を感じるまでまわしてみて、握りのところ（外周）で50 以内が正規の遊びです。遊びが多いとき、何か異状が感じられたときは、早目にサービス工場へ連絡してください。

4 =計器類、ランプ類の点検

計器類……エンジン・スイッチをONにして、各インジケータ・ランプが点灯するが確認します。

エンジンを始動して、各警告灯、ゲージが作動するか確認します。

ターン・シグナル・ランプ……エンジン

・スイッチをONにして左右同じ早さで点滅するかを点検します。

万一異常があり、ヒューズ、ランプ類などを点検し、なおらない場合にはサービス工場へ連絡してください。

（セルフ・サービスのしかた49頁を見てください。）

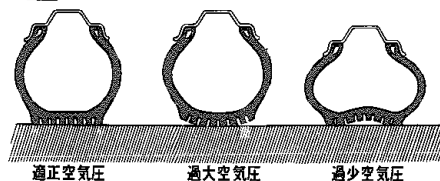
ホーン……ホーンの音が正常なことを確認します。

ワイパー……ワイパーが正常に動くことを確認します。（フロント・ガラスの汚れ、ホコリを取り除いて行ないます。）

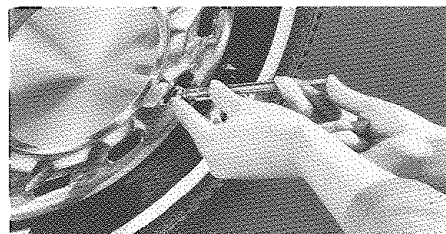
リヤ・ビュー・ミラー……運転する姿勢で後方がはっきり見えることを確認します。

車の前から

1 =タイヤの点検



タイヤの空気圧を外観をり判断する目安は図のとおりです。タイヤの空気圧は常に適正に保ってください。



空気圧はゲージで確実に適正空気圧に調整してください。

このときスペア・タイヤも少し高目に入れておきましょう。

前後左右のタイヤの摩耗が著しく異なる

場合、および損傷がある場合は取扱店のサービス工場で点検を受けてください。

適正空気圧

	前 輪	後 輪
空 車	1.8kg/cm ²	1.8kg/cm ²
積 車	1.8kg/cm ²	3.2kg/cm ²

(100km/h以下で走行する場合は上記空気圧以上にする必要はありません。)

② =ヘッド・ランプ

ヘッド・ランプの点灯を確認します。

③ =パーキング・ランプ

パーキング・ランプの点灯を確認します。

④ =ライセンス・プレート

ライセンス・プレートの汚れを点検します。

車の下をのぞいて

車をとめておいた地面に油とか水の漏れたあとがないかを調べます。もし異常があると思われるときはサービス工場での点検を受けてください。

① =エンジン・オイルの洩れ

② =トランスミッション・オイルの洩れ

③ =デイファレンシヤン・オイルの洩れ

④ =ブレーキ配管のオイル洩れ

⑤ =ラジエータの水洩れ

⑥ =バネの折損

車の後から

エンジンを始動し、ライト・コントロール・スイッチを一段引き出し、次の項目を点検します。

① =テール・ランプの点灯

② =ライセンス・プレートの汚れ

③ =ライセンス・プレート・ランプの点灯

④ =排気ガスの色

⑤ =タイヤ空気圧、傷、摩耗

⑥ =バック・アップ・ランプの点灯

⑦ =テール・ランプの点灯

⑧ =ストップ・ランプの点灯

徐行しながら

再び運転席へもどり、ライト・コントロール・スイッチを押して、ランプ類を消して徐行しながら次の項目を点検してください。

① =各ゲージ類の作動と速度計

② =ハンドルの重さ

走行しながらハンドルが振れたり、取られたり、または重かったりしないことを確認します。

③ =ブレーキの効き

ブレーキをかけてみて、片効きのないこと、効きが正常であることを確認します。